

# ～皆さんの声をまちづくりに～

## 「安平町水道ビジョン」(案)

### 「水道料金・下水道使用料の改正」(案)

に関する意見を募集します

「安平町水道ビジョン」(案)は、水道施設の老朽化、人口減少や少子高齢化、節水意識の高揚による水需要の減少などの課題が山積みし、財政的に水道経営が困難になる予測の中で、安全安心な給水や未普及地域の解消、災害対策の構築などの課題対応を行った上で、水道水を安定的に供給

## 安平町水道ビジョン(案)の概要

### ▶水道事業の課題・解決策

#### －課題－

- (a) 施設が多く減価償却費と運転管理経費が高額になり、水道会計を圧迫している。
- (b) 施設の老朽化が進行し、耐震性も低い。
- (c) 給水人口の減少などで営業収益の増加は見込めない。
- (d) 水道職員の技術継承が困難である。

#### －解決策－

- (a) 施設の統廃合を促進し資産を抹消することで、減価償却費と運転管理経費を削減する。
- (b) 緊急度と財源を検討したうえで事業を計画する。
- (c) コスト削減と水道料金の改正を行う。
- (d) 水道施設管理等、民間委託を促進拡大する。



#### －具体策－

- (a) 各水道施設の状況は、建設時から大きく変化して、その施設のもつ機能を代替させることが可能な施設もあることから施設の統廃合を推進します。  
※岡岡浄水場、明春辺浄水場、雑用水浄水場、安平増圧ポンプ場の廃止
- (b) すべての水道施設で耐震基準を満たすには、浄水場などの基幹施設と平成28年度に耐用年数を迎える配水管だけでも約40億円の事業になります。この実現は難しいことから、計画期間内の事業は、幹線的な配水管や病院や避難所指定施設等の重要給水施設を優先して整備します。
- (c) (a)(b)を実施しても給水人口の減少による給水収益の減額で企業経営は困難になることが予測され、平成34年度に10%増の料金改正を計画します。
- (d) 水道技術職員には、管工事と水道施設管理の技術が求められますが、管工事の技術は下水道や道路、河川工事に共通するもので、人事異動でも大きな支障もなく活用できますが、水道施設管理は水道だけの技術で、さらに各施設によっても要する技術が違うことから、水道施設管理は民間ノウハウの活用を拡大します。

### ●平成27年度決算における損益計算書の概要

平成27年度の損益計算		平成28年度の損益計算	
営業費用 291,764,430 円	営業収益 173,156,810 円	営業費用 214,241,000 円	営業収益 171,504,000 円
	営業外収益等 72,577,274 円		営業外収益等 73,915,000 円
営業外費用等 30,524,316 円	純損失 76,554,662 円	営業外費用等 25,062,000 円	純利益 6,116,000 円
計 322,288,746 円	計 322,288,746 円	計 245,419,000 円	計 245,419,000 円

純損失(赤字)が約76百万円ありますが、平成24年度からの累積欠損金は約3億8千万円に上ります。営業費用の291,764,430円の内訳では、減価償却費が169,863,764円あり、営業収益にほぼ匹敵する額になり企業経営を圧迫しています。しかし、前述の解決策を実施した後の平成28年度は次のような損益計算になる財政計画です。